

1 理事会の開催

(1) 第1回(平成25年5月9日)

- ①平成24年度事業報告および決算について審議し決定した。
- ②平成25年度事業計画および予算について審議し決定した。
- ③その他
 - 1) 全国サポート協会理事会の報告が安藤浩己氏よりあった。
 - 2) 会計監査委嘱(月次・年度末)について会長より会員も7,000名を超え取り扱う金額も大きくなってきたので、専門家(税理士の江幡 寛氏)の監査が必要ではないかと考えていると説明があり、決定した。
 - 3) 平成25年度の共催事業計画書の提出を構成5団体に依頼した。

2 総会の開催

(1) 第1回(平成25年5月9日)

- ①平成24年度事業報告および決算について承認した。
- ②平成25年度事業計画および予算について承認した。
- ③その他
 - 1) 専門家(税理士の江幡寛氏)の監査(月次・年度末)を受けることを承認した。
 - 2) 平成25年度の共催事業計画書の提出を構成5団体に依頼することを承認した。
 - 3) JICより報告
 - 傷害保険は今秋以降、全社一斉に値上げになるが、やまゆり知的障害児者生活サポート協会(以下、当協会)が扱っている「生活サポート総合補償制度」は値上げをしないと説明があった。

3 理事会の開催

(1) 第2回(平成26年3月28日)

- ①平成26年度予算案について審議し決定した。
平成25年度決算について概算報告が事務局から行われた。
- ②平成25年度共催事業報告書(11件)について決済した。
- ③その他
 - 1) JICより報告
 - 平成25年度は全国で約5,000名の方が新たに加入し、現在、全国で92,000名の会員数である。やまゆり知的障害児者生活サポート協会(神奈川県)は25年度新規に約300名弱の加入があり全国トップであるとの説明があった。

4 事業推進委員会の開催

(1) 第1回(平成25年4月17日)

- ①平成25年度のメンバーの紹介
- ②3月28日理事会の報告
 - 岩本委員長より理事会での審議の内容について報告がなされた。
 - ・自主事業に関する平成25年度の基本的な方針は承認された。
 - ・予算額は5月理事会で最終決算との確認を行う条件付きで仮承認された。
 - ・自主3事業の報告について特別な付帯決議や意見はなかったこと。
- ③平成25年度の事業基本計画打ち合わせ(基本計画と今後の展開)
 - 1) 研修事業
 - ・「平成25年度やまゆり研修(講師依頼)計画について」研修チームの検討内容を説明した。
 - ・各委員から研修チームへの意見を集約した。
 - 2) 本人活動支援事業
 - ・本人活動支援チームの平成25年度事業計画骨子を説明し、各委員の意見を求めた。
 - ・「本人会議」と既存の「あおぞらパーティー」のコラボレーションを検討していたが、「あおぞらパーティー」は主に施設と職員が参加する本人活動で、在宅の本人の参加の機会が減るという意見があったのでチーム内で再検討することにした。
 - 3) 電話相談事業
 - 電話相談を現在の相談員での現行体制を今後1年間継続すること等を提案した。
- (2) 第2回(平成25年6月21日)
 - ①新メンバー自己紹介
 - ②平成25年度の事業基本計画の現状報告(前回4月事業推進委員会以降の進捗)と委員会として意見交換をした。



1) 研修チーム報告

- ・第1回目の研修会を下記のように決定した。
日 時 平成25年度7月29日(月) 10:00~12:00
場 所 県社会福祉会館2階ホール
講 師 平本 謙氏(足利短期大学准教授)
テーマ 「福祉施設等における権利擁護を考える」
~利用者や支援者、いずれもが人として権利を守られる、虐待のない支援現場を作るために~
- ・第2回目の研修会テーマを「相談支援」、「意思決定支援」に絞り、講師の候補者について議論した。
- ・「意思決定支援」を基本から学びたいとの意見から、英国の意思決定法の研究者である菅富美子氏に依頼することにした。会場は社会福祉会館2階ホールで良いという意見が出た。

2) 本人活動支援チーム報告

- ・今年度は3段階の企画をした。
- ・第一弾は、9月17日に「本人活動支援者研修会」を県民サポートセンター2階ホールで実施する。
- ・第二弾は、11月中旬に「本人・支援者会議」を予定。
- ・第三弾を平成26年2月頃に開催予定の「3施設協主催の第31回支援実践報告会」に特別参加する可能性を探ることにした。駄目な場合は独自の「支援者実践報告会」を検討する。

3) 相談支援チーム報告

- 電話相談の継続を決め、引き続き実施中ではあるが、ここ数か月はあまり利用がなかった。今まで電話相談を受けた内容から傾聴の潜在的ニーズは高いと推察されるので、今後とも周知に努めつつ、1年間様子を見たいという報告があり、了承された。

(3) 第3回(平成25年8月21日)

- ①平成25年度の事業基本計画の現状ならびに委員会としての意見交換をした。

1) 研修チーム報告

- ・第1回研修会(7月29日)講師:平本謙氏)のアンケート結果を報告した。参加者数は過去最大で、参加者のアンケートを見ても高い評価を受けている。
- ・第2回目の研修会は「意思決定支援」に絞って行う。講師は菅富美子氏(法政大学准教授)が最適である。

2) 本人活動支援チーム報告

- ・第一弾の「本人活動支援者研修会」(9月17日)に続き、第二弾の「本人・支援者会議」を11月14日に実施することを決定した。
- ・第三弾を平成26年2月頃に施設協会が主催する「職員実践報告会」にやまゆり研修者の参加を検討したが、現状では難しいという回答が出た。
- ・当協会独自の「支援者実践報告会」を行うという企画を引き続き検討中である。

3) 相談支援チーム報告

- ・依田氏担当月での電話相談はなく、坂間氏担当月では1回(障害者本人の継続相談)のみ相談があった。
- ・電話相談がない場合には継続するニーズがあるのか、それともPR不足か等、中止にするかも含めた検討事項についてチームとしての結論を出していきたいとの報告があった。

(4) 第4回(平成25年10月2日)

- ①平成25年度の事業基本計画の現状ならびに委員会としての意見交換をした。

1) 本人活動支援チーム報告

- ・第一弾9月17日「本人活動支援者研修会」を開催した。
- ・第二弾11月14日「本人・支援者会議」を実施予定。
- ・第三弾は平成26年3月頃に当協会独自の「支援者実践報告会」を行うという企画を引き続き検討中であるが、「外部を交えての実践報告会は時期尚早ではないか」との意見があり、引き続きチーム内で検討することにした。

2) 相談支援チーム報告

- ・電話相談は継続を決めたので実施中であるが、相談支援チーム内の打ち合わせを計画している。

3) 研修チーム報告

- ・第2回目の研修会は「意思決定支援」をテーマに、当初菅富美子氏への講演依頼を検討したが、調整がつかず、再検討した。
- ・「障害者の意思決定支援について」のテーマで、赤塚光子氏に講演依頼を行った。
平成26年1月27日(月) 10:00~12:00を予定。

(5) 第5回(平成25年12月2日)

- ①平成25年度各事業内容の現状を報告した。
 - 1)研修チーム報告
 - 第2回目の研修会を下記のように決定した。
日 時 平成26年1月27日(月) 10:00~12:00
場 所 県社会福祉会館2階ホール
講 師 赤塚 光子氏
テーマ 「障害者の意思決定支援について」
 - 2)本人活動支援チーム報告
 - ・9月17日「本人活動支援者研修会」ならびに11月14日「本人・支援者会議」実施の様子を報告した。
 - ・「支援者実践報告会」の企画はチーム内で話し合った結果、時期尚早であるとし、本年度は取り止めることを報告した。
 - 3)相談支援チーム報告
 - ・10月7日に行った打ち合わせの現状を報告した。
 - ・4月から9月までの実績報告では、坂間氏は事業開始以来1人の障害当事者からの相談が続いている。
 - ・依田氏は今年度担当した3回とも相談はなかった。
 - ・全体としては傾聴に終わっている。
 - ・「相談員としては相談が傾聴であることや相談がないのに4時間待つということに苦痛はないが、それでのいか」疑問に思っているとの発言があった。
- ②平成25年度事業計画の現状から平成26年度の自主事業の進め方について
 - 1)研修チーム
 - ・事業は継続で考えたい。
 - 2)本人活動支援チーム
 - ・今年度の実績を踏まえて継続していきたい。
 - 3)相談支援チーム
 - ・「やまゆりニュース」に掲載してPRする。その後も実績があがらないようであれば、クローズすることも視野に入れ、事業推進委員会において検討していく。



(6) 第6回(平成26年2月17日)

- ①各事業の現状と総括報告をした。
 - 1)研修チーム
 - ・7/29、1/27と年間2回の研修会を開催した。参加者は2回ともかなりの方の参加があった。
 - ・アンケート内容からは、テーマがタイムリーだった。施設職員の参加が多かった。参加の理由として、聞きたい講師だったというものが多かった。
 - 2)本人活動支援チーム
 - ・9月17日に「本人活動支援者研修会」を開催した。「あおぞらだよりNo.3」を配布した。
 - ・11月14日に「本人・支援者会議」を開催した。
 - ・当協会独自の「支援者実践報告会」は実施しなかった。
 - 3)相談支援チーム
 - ・試行事業のままスタートして今年度も継続してきた。来年度もこのまま継続していくが、今後の事は皆さんと検討して考えていきたい。
- ②今年度の自主事業の現状を踏まえ、来年度の進め方について意見交換をした。
 - ・平成26年度は自主3事業とも継続していく事を前提とする。
 - ・各チームごとに総括をし、それをベースに平成26年度自主事業を進めて行きたいと考えている。
- 5 給付審査委員会
 - 当協会独自の差額ベッド費用補てん給付分(差額ベッド費用が1日あたり3,001円以上5,000円までの実費補てん)について審査し給付した。
 - (1) 第1回(平成25年 4月17日); 34名・673,600円
 - (2) 第2回(平成25年 6月19日); 25名・553,000円
 - (3) 第3回(平成25年 8月21日); 28名・484,535円
 - (4) 第4回(平成25年10月16日); 25名・437,860円
 - (5) 第5回(平成25年12月18日); 32名・581,050円
 - (6) 第6回(平成26年 2月19日); 19名・313,860円
 - 合計 163名・3,043,905円
 - ※昨年度に比べ請求人数は16名増、補てん額は93,745円減でした。(平均は18,674円) (以下余白)

平成25年度 やまゆり知的障害児者生活サポート協会 決算書

収入の部 (単位:円)			
科 目	予算額	決算額	差 額
預り保険料	109,594,000	109,876,610	282,610
制度運営費	16,206,000	16,291,400	85,400
雑収入	1,500	42,409	40,909
当期収入計	125,801,500	126,210,419	408,919
前期繰越金	6,758,609	6,758,609	0
合 計	132,560,109	132,969,028	408,919
支出の部 (単位:円)			
科 目	予算額	決算額	差 額
事業費	3,100,000	2,600,018	499,982
サポート事業費	3,100,000	2,600,018	499,982
預り保険料	109,594,000	109,876,610	△282,610
全サボ会費	1,603,000	1,605,300	△2,300
管理費	14,375,500	12,546,450	1,829,050
会議費	150,000	79,942	70,058
法定福利費	750,000	708,449	41,551
福利厚生費	72,000	72,000	0
旅費	300,000	155,340	144,660
事務用品費	450,000	359,931	90,069
印刷製本費	660,000	688,954	△28,954
通信運搬費	950,000	773,480	176,520
事務委託費	1,243,000	1,255,883	△12,883
広告料	130,000	130,000	0
所属手数料	1,150,000	1,166,950	△16,950
給与	7,110,500	6,576,773	533,727
支払手数料	290,000	220,000	70,000
負担金	1,020,000	256,923	763,077
雑費	100,000	101,825	△1,825
役務費	70,000	69,210	790
予備費	3,817,609	0	3,817,609
当期支出計	132,560,109	126,697,588	5,862,521
当期収支差額	△6,758,609	△487,169	△6,271,440
次期繰越金	0	6,271,440	△6,271,440
合 計	132,560,109	132,969,028	△408,919

○サポート事業費収支状況 (単位:円)

科 目	金 額
一般会計より	3,100,000
雑収入(預金利息)	295
合 計	3,100,295
サポート事業費	
自主事業	1,840,313
共催事業	760,000
合 計	2,600,313
一般会計へ	499,982



○次期繰越金に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	当期末残高
現金預金	6,486,133
前払金	242,860
資産合計	6,728,993
前受金	384,830
預り金	72,723
負債合計	457,553
次期繰越金	6,271,440



平成25年度 責任準備金及び給付事業会計 決算書

収入の部 (単位:円)			
科 目	予算額	決算額	差 額
雑収入	0	120,140	120,140
繰越金	12,216,641	12,216,641	0
合 計	12,216,641	12,336,781	120,140
支出の部 (単位:円)			
科 目	予算額	決算額	差 額
給付金	3,500,000	3,043,905	456,095
支払い手数料		13,650	
役務費	100,000	47,670	38,680
責任準備金	8,616,641	9,231,556	△614,915
合 計	12,216,641	12,336,781	△120,140

H25年度・やまゆり共催事業報告（やまゆりは各構成団体に事業負担金の配分をしています）

日時	内容	会場	主催団体
H25/7~ H26/3	支援技術・障害特性を学ぶ研修会 制度改定や法律を学ぶ研修会	障害者支援センター松が丘園研修室(4回) 津久井やまゆり園ケアホーム(1回)	神奈川県知的障害施設団体連合会
H25/11/8	神奈川県オンプズマンネットワーク交流研修会 オンプズマン活動の課題と展望	大和市生涯学習センター	神奈川県知的障害施設団体連合会 神奈川県知的障害福祉協会 同上 人権委員会
H25/11/25, H25/12/11	福祉施設等における権利擁護(職員・保護者研修) 障害者虐待防止法研修・より良い支援を目指して	エポックなかはら 高津区役所会議室	神奈川県知的障害施設団体連合会
H26/2/18	Y ネットセミナー “私たちの人権について勉強しよう” ～伝えたい 私のきもち～	障害者スポーツセンター	神奈川県知的障害施設団体連合会 横浜ふくしネットワーク(Y ネット)
H25/9/9, H26/1/14,2/20	平成 25 年度神奈川県手をつなぐ育成会地域集會 (in 海老名、西湘、三島半島)	海老名市文化会館、小田原生涯学習センター けやき、逗子文化プラザ 市民交流センター	神奈川県手をつなぐ育成会
H26/3/5	第 27 回 知的障害者が地域で幸せに暮らすための共に考える集い	横浜市健康福祉総合センター	特定非営利活動法人 横浜市手をつなぐ育成会
H26/3/4	入所施設の現状と課題を考える研修 「通過型施設の役割～地域生活移行へ、必要な支援とは～」	川崎市生活文化会館(てくのホール)	川崎市育成会手をつなぐ親の会
H25/6/2	権利擁護事業(障害者総合支援法に関する研修会)	海老名市文化会館	神奈川県知的障害者施設保護者会連合会
H25/7/7	権利擁護事業(障害者虐待防止法に関する研修会)	かながわ県民センター	神奈川県知的障害者施設保護者会連合会
H25/11/3	「これからの地域での暮らし」を考える(生活支援、権利擁護)	横浜市技能文化会館	神奈川県知的障害者施設保護者会連合会
H25/2/2	「成年後見制度の課題と解決策」(権利擁護事業)	かながわ県民センター	神奈川県知的障害者施設保護者会連合会

平成 26 年度 事業計画

1 総会の開催

2 理事会の開催

- (1) 事業計画や予算の策定、決算等について審議、決定する。
- (2) 事業負担金配分規程に基づき、各構成団体から申請のあった共催事業について当協会の共催事業としてふさわしい事業であるかを審査し、事業負担金の配分を行う。
- (3) 神奈川県障害児者団体連絡協議会の構成団体として参画することに関する、負担金等について検討を行う。

3 事業推進委員会の開催

昨年ひきつづき、隔月に 1 度会議を開き今年度事業の着実な推進を図る。

4 事業の実施

(1) 事業の種類

ア 第 1 種事業

当協会が単独で主催する事業をいう。

イ 第 2 種事業

当協会と構成団体である 5 団体と共催で行う事業をいう。

ウ 第 3 種事業

知的障害児者本人のために行う事業をいう。

県内における本人活動に対する研修や昨年度に引き続き支援者支援会議を開催する。

5 広報活動

広報誌「やまゆりニュース」を発行したり、構成団体の機関紙に広告を掲載し当協会の事業について情報提供し、会員の理解を得るとともに、保険制度の内容を適時、適切に紹介する。

6 給付審査委員会の開催

当協会独自の給付である差額ベッド費用に係る給付について、必要に応じて随時(2 ヶ月に 1 回程度)審査委員会を開催して審査し、正確な給付金額を決定し、給付する。

7 事務処理の円滑な推進

事業実施に係る構成団体等との調整を円滑に進めるとともに、加入手続きや会費の収納事務、団体保険に係る受付、差額ベッド費用に係る給付などについて、適切かつ迅速な処理に努める。

8 関係団体との連携

全国知的障害児者生活サポート協会や関東地区における協会との連携協力を深め、共通認識の上で適切な対応に努める。

(以下余白)



■構成団体■

神奈川県手をつなぐ育成会

神奈川県知的障害施設団体連合会

NPO法人 横浜市手をつなぐ育成会

(福)ともかわさき 川崎市育成会手をつなぐ親の会

神奈川県知的障害者施設保護者会連合会



平成 26 年度 やまゆり知的障害児者生活サポート協会 予算書

収入の部

(単位・円)

科目	予算額	備考
預り保険料	111,919,000	傷害等保険料
制度運営費	16,550,000	
雑収入	1,500	預金利息
繰越金	6,271,440	25年度から繰越
合計	134,741,940	

支出の部

(単位・円)

科目	予算額	備考
事業費	3,100,000	
サポート事業費	3,100,000	自主事業、共催事業(850,000)
預り保険料	111,919,000	
全サボ会費	1,634,000	入会金@300、年会費@200
管理費	13,842,000	
会議費	90,000	会議室使用料、お茶代
法定福利費	760,000	事業主負担分
福利厚生費	72,000	中小企業退職金共済掛金
旅費	200,000	理事・代議員旅費、給付審査委員旅費、全国サポート協会研修参加旅費
事務用品費	350,000	事務用消耗品費(印刷用紙等)、事務用機器関連品等購入費
印刷製本費	650,000	パンフレット等製作費(1割負担分)、会報作成費、印刷機・コピー機等印刷経費
通信運搬費	900,000	切手等郵便料、電話・通信料、宅急便・メール便料
事務委託費	1,480,000	振替手数料(86+52)、振替通知郵送料、データ管理委託料
広告料	130,000	構成団体等機関誌広告料
所属手数料	1,200,000	事務手数料(施設、育成会他)
給与	7,210,000	職員雇用経費
支払手数料	260,000	税理士月次年次監査手数料
負担金	400,000	障団連負担金(家賃、光熱費他)
雑費	140,000	慶弔費、社協会費他
関フロ(全サボ)経費	150,000	H26年度担当県のため
役員費	70,000	会費・会費返納金振込手数料
予備費	4,026,940	
合計	134,741,940	

平成 26 年度 責任準備金及び給付事業会計 予算書

収入の部

(単位・円)

科目	予算額	備考
繰越金	9,231,556	25年度から繰越
合計	9,231,556	

支出の部

(単位・円)

科目	予算額	備考
給付金	3,500,000	差額ベッド費用補てん分
役員費	60,000	差額ベッド費用振込手数料
雑費	40,000	ネットバンキング、残高証明書代
責任準備金	5,631,556	27年度から繰越
合計	9,231,556	

やまゆり知的障害児者生活サポート協会 事務局(編集)

〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2 神奈川県社会福祉会館内

Tel:045-314-7716 Fax:045-324-0426